

牛久：学校周辺に見る自然

第31号 宮内家

2011年8月5日発行

＜ 水そうで、タヌキモが咲いています ＞



前号で名前だけ出したタヌキモですが、わが家のベランダに置いた水そうの中で、2週間ほど前から次々と咲いています。

タヌキモはタヌキモ科の多年生^{たねんせい}の水草で、細かく枝分かれし、虫^{とらえる}を捕える小さな袋^{ふくろ}をたくさんつけた食虫植物^{しょくちゅうしょくぶつ}です。遺伝子^{いでんし}を読み取り比較^{ひかく}する最近の研究で、オオタヌキモの花粉^{かふん}がイヌタヌキモの雌しべについてできたことがわかりました。

生育^{せいいく}に適した環^{かんきょう}境^{きょう}がなくなるなどして全国的に少なくなっており、茨城県でも「絶滅危惧^{ぜつめつきき}Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種^{やせい}」に指定され、牛久市では野生では絶滅^{はんてい}したと判定^{はんてい}されています。今ではこのように、愛好家^{あいこうか}などに育てられ、水そう^{みずそう}などで細々と生きています。が、同じく野生絶滅とされる稲敷市の用水路^{きれはし}で、昨年、切れ端^{きりせ}を見つけていたので（よく似たイヌタヌキモの可能性もあり）、もしかしたらどこかでひっそりと、まだ生き残っているかもしれません。

かわいい黄色の花を夏から秋にかけて咲かせるので、もし、それらしきものを見つけたら教えて下さい。

【理科支援員 宮内】

